

Ⅲ チャイニーズ・ドリームに関する評価と分析

梁 雲祥 (法学博士)

アジア近代化研究所客員研究員、北京大学国際関係学院教授

序言

2012年11月第十八回中国共産党全国代表会議において、新しい指導者が就任して以来、内政と外交の両面において、既に前任者とは違う政治スタイルや実施政策を展開していた。その中で習近平国家主席本人およびその新政権が提示した、いわゆる「チャイニーズ・ドリーム」には、スローガンとして、あるいは一種の思想・理論・目標として、ある程度この期の指導者およびその政権構成員の政策意思決定が反映されている。そのため、いわゆる「チャイニーズ・ドリーム」とは何か？ さらに、「チャイニーズ・ドリーム」を実現する過程において、中国にどのような変化が引き起こされるのか、などに関して、中国国民は当然、大きな関心を抱いている。それと同時に、中国の国家規模や発展速度および国際社会における影響力の増大により、この新しいスローガンの提示は疑問の余地なく、世界の関心を呼んでいる。したがって、「チャイニーズ・ドリーム」に対する分析を通して、中国の今後の方向や展望を理解することが可能になることを切に希望する。

1. 「チャイニーズ・ドリーム」の提示およびその内容

「チャイニーズ・ドリーム」が初めて提示されたのは、第十八回中国共産党全国代表会議が閉幕して間もない2012年11月29日のことである。即ち、習近平が総書記として中国国家博物館で行われた大型

展覧会《復興の道》を参観したときに、「チャイニーズ・ドリーム」の概念が初めて正式に提示された。併せて、「チャイニーズ・ドリームとは何か？ 私は中華民族の偉大な復興の実現、それこそが中華民族の近代における最も偉大なチャイニーズ・ドリームであると思う」、と彼は述べている。

その後、習近平はまた異なる場面で、幾度となくこの概念をめぐってさらに詳しく述べており、中国の理論界や学術界の中にも、この概念をめぐって解釈を行う人が出てきた。例えば、2013年3月17日の第十二回全国人民代表大会の第一次会議の閉幕式で、習近平は、「中華民族の偉大な復興であるチャイニーズ・ドリームを実現することは、要するに国家富強・民族振興・人民幸福を実現することだ」と述べている。それから6日後の3月23日、習近平はロシアを訪問し、モスクワ国際関係学院で演説を行った。その際にまた「国家富強・民族振興・人民幸福、これこそがチャイニーズ・ドリームの基本的な内容である」、と述べている。2013年5月31日に習近平がラテンアメリカ三か国メディア連合による書面取材に応じた際にも、重ねて次のように表明した。この新たな歴史の1ページにおいて、チャイニーズ・ドリームの本質は国家富強・民族振興・人民幸福である、と。

その他にも、習近平は「チャイニーズ・ドリーム」には、その特徴として国民性・歴史性・平和性が備わっているべきだと考

えている。例えば、彼は次のように述べている。「チャイニーズ・ドリームは国家のものであり、民族のものであり、ひとりひとりの中国人のものでもある」、「チャイニーズ・ドリームの根源は人民の夢である」、「国家がうまくいき、民族がうまくいって初めて皆がうまくいく」。即ちこの目標は中国国民一人一人が追い求めるべきものでもあり、そこには国家と国民の共通の利益が示されている。また、「チャイニーズ・ドリームは歴史的なもので、現実的なもので、未来的なものでもある」、即ち、この目標は一つの歴史を踏まえた選択である。なぜなら、この目標には近代以来無数の愛国志士のたゆまぬ努力と数代にわたる中国人の宿願が凝縮されており、中国全国民の共通の願いが含まれており、全中華民族の追い求める国家富強・民族振興・人民幸福というポジティブな展望がはっきりと示されているからである。

彼はさらに、「われわれが実現しようとしているチャイニーズ・ドリームは、中国国民だけでなく、世界中の人々にも幸せをもたらすものである。チャイニーズ・ドリームは平和で、発展性のある、協力的な、WIN-WINの夢であり、世界各国の人々が望む夢とも通じる場所がある」と述べている。即ち、この目標を実現する過程において中国は平和的発展の道を歩みながら世界に貢献し、世界各国と共に WIN-WIN な世界を構築していくということを意味している。2013年10月24日、習近平は中国周辺外交工作座談会において、「チャイニーズ・ドリームを近隣諸国の人々が良い生活を送りたいという願望や地域の今後の展望と結びつけ、運命共同体という意識を近隣諸国に根付かせなければならない」とも述べている。さらに、その後習近平は

韓国・東南アジア・中央アジア・ロシア・アフリカ・ラテンアメリカ・ヨーロッパ・米国などの国や地域を訪問する際にも、重ねて言明している。

要するに、簡単に言えば、いわゆる「チャイニーズ・ドリーム」とは、中国を国内的には繁栄させ、裕福で、公平かつ正義感のある国家にすると同時に、対外的には平和的な発展により、世界的に影響力を行使できる大国・強国にするということである。

2. 「チャイニーズ・ドリーム」の本質及び実現方法

それでは、一体、「チャイニーズ・ドリーム」をどのように理解すれば良いのであろうか？ 言い換えれば、中国の新しい指導者がこの概念を打ち出した目的とは一体なにであろうか、またこの目標を実現するための具体的な段取りや方法はどのようなものであろうか？

まず初めに、「チャイニーズ・ドリーム」の提示は、中国の新たな政治指導者が自身と前任者を区別する一つのスローガンであるということである。つまり、中国の指導者の政治習慣に基づいて、指導者が変わるごとにその任期内に、ある種の思想や理論あるいは主張や目標などの、自らの政治スタイルや実施政策などを端的かつ象徴的に表すことのできるスローガンを掲げる必要がある。このスローガンを掲げることにより、自己の独創性と権威性を表明することができ、さらに人民の心を一致団結させ、各階級の政府関係者の忠誠を集める一つの指標にすることもできる。具体的に挙げてみると、習近平以前の各指導者の執政時期においても、毛沢東思想をはじめ、鄧小平理論、三つの代表思想および科学的発展観といった考えが提起された。

次に、「チャイニーズ・ドリーム」は、中国の新しい指導者が統治の際に必要とするものでもある。その目的は、新政権の合法的な権力的地位や政権の安定性を説明することである。これは、中国社会全体の共産主義に対する信仰の欠落に直面している現在、愛国主義および民族主義が、国民の団結のための重要な手段とか武器になったということの意味している。すなわち、共産主義の理想や信念が普遍的に同意されることが難しくなってからこの方、「民族復興」を掲げることは新政権がその合法性を維持するための一つの重要な手段なのである。よって、「チャイニーズ・ドリーム」が追い求めている、中国が大国・強国になるという目標は中国国民の心理的欲求をかなりの程度に満たすことになる。

別の角度から見ると、中国で現在蔓延している政治的腐敗、貧富の格差、社会の不公平感、環境悪化や食品安全などのネガティブな問題に対しても、「チャイニーズ・ドリーム」は人民を奮い立たせ、ポジティブな未来を描く役割を担うことにもなる。

もちろん、「チャイニーズ・ドリーム」は単なる政治的スローガンまたは統治の手段というにとどまらない。それは実践的な内容をも含むものであり、その目標は目新しいものではないともいえる。実際、1949年に中国共産党が政権を握って以来、歴代の政府はすべて、いわゆる現代化による強国の地位を追求してきた。特に、1980年代に改革開放政策が実施されて以来、既に、今日の政治目標である「チャイニーズ・ドリーム」の内容の一部は、具体的に提唱されてきていたといえる。例えば、「チャイニーズ・ドリーム」の一つである「二つの百年」は、次の二項目を目標としてい

る。

- ① 2021年の中国共産党成立百周年を迎えるまでに「小康（わりあいゆとりのある）社会」を全面的に建設すること
- ② 2049年の中華人民共和国建国百周年までに「富強・民主・文明・調和の社会主義近代国家を建設すること」

要するに、習近平の「チャイニーズ・ドリーム」も、結局は今までの政権目標の延長線上に位置するものである。即ち、引き続き国民生活を改善し、社会的公正を実現し、国民に公正で正義のある裕福な素晴らしい社会で生活しているという実感を味わわせることを目標にしており、さらには近代以降、中国人民が追求してきた大国・強国の地位を確立することを目標としているのである。

それでは、いかにして「チャイニーズ・ドリーム」を実現させるのか？ その前提には当然共産党のリーダーシップが必要であり、それと同時に持続的な経済発展を維持する必要性もある。もしこれらの二つが欠落しているのであれば、「チャイニーズ・ドリーム」の実現は不可能である。この二つを基礎とした上で、さらに腐敗の撲滅、法治の実現、社会保障システムの構築、環境の改善、軍備の強化や有効な平和的外交の展開等を実現するために、一連の手段や方法を実行する必要がある。これらの政策を通して腐敗、経済格差、環境の悪化、社会の不公平感などの国内社会の問題、および平和的に先進国の仲間入りを果たすことと、大国・強国の地位の実現という対外関係上の課題を解決する必要がある。当然、これらの中には、国家の統一や領土問題の解決、国際的地位の向上、などの課題の解決も含まれるべきことは言うまでもない。

3. 「チャイニーズ・ドリーム」は実現可能か？

しかしながら、以上のようなすばらしい「チャイニーズ・ドリーム」の実現は決して簡単なことではない。それどころか、どの項目をとっても実現には非常に長い時間と巨額のコストを要するものばかりである。その上、具体的とは言えない、単なる原則もしくは理想的な未来図でしかないものもある。さらに言えば、その項目自体が互いに矛盾しているところもある。例えば、どのように迅速に勃興し一つの強大な国になると同時に、他の国との平和維持を保証するのか、といった疑問である。どのように共産党の指導的地位の堅持と法治国家体制の実現を両立させるか、などといった問題もある。特に、現在の中国国内では対立や問題が山積みになっており、国外に対する利益の拡張はすでに反発を受けている。これらのことから、「チャイニーズ・ドリーム」の実現には多くの困難が待ち受けていると言えるだろう。

言うまでもなく、中国経済の迅速な発展と総合的な国力の上昇および中国人固有の一種の大国意識が既に「チャイニーズ・ドリーム」の出現を一種の必然的なものにしてしている。それに加えて、中国は国民のこの夢への追求を発展させ続けてさえいけば、その夢が無くなることはないと信じている。しかし、現在の中国の政権交替とい

う政治習慣に鑑みるに、一期の政府の執政期間はせいぜい10年であり、この限られた期間内に、「チャイニーズ・ドリーム」のすべての内容を実現させることは、明らかに現実的ではない。

以上のことから、スローガンとしての「チャイニーズ・ドリーム」は長くは続かないだろう。数年後には別のスローガンがこれに取って代わるかもしれない。それでも、このスローガンが追い求めている理念あるいは最終的な目標は、引き継がれていくと想像される。

結語

以上で、簡単に中国の現政権が掲げるスローガンであり、一種の思想・理論・目標でもある「チャイニーズ・ドリーム」について、若干の分析を試みた。それは中国国内でも注目されるが、いまや国家規模や発展速度および国際社会における影響力の増大などから、世界に大きな影響力を持った大国であるだけに、その一挙手一投足が世界の注目を浴びる。その意味で、習近平体制がどのような目標やスローガンを掲げ、何を実現しようと考えているか、内外の人たちに正しく知ってもらう必要もある。その意味で、本稿が少しでも役立つことができれば、これに勝るものはないと考える。